

インフォメーション・コーナー

会 告

○ 2021 年度農業農村工学会大会講演会はオンライン開催に変更します	84
○ 2021 年度農業農村工学会賞の決定	84
○ 研究部会長の交代	84
○ 2022 年度農業農村工学会賞候補の推薦 締切 10 月 31 日	84
○ 今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！ 2021” 応募締切 7 月 31 日	85
○ 改定 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内	86
○ お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	86
○ 2021 年 4 月から新たな CPD 制度がスタート！ 2020 年度 CPD 記録の申請期限は【2021 年 6 月 30 日まで】です	87
○ 建設業法に基づく経営事項審査に CPD への取組み状況を新設！	87
○ 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	87
○ 2022 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	87
○ 「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	88
○ 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020 年 7 月から 2021 年 6 月までの編集体制と編集事務局	90
○ 第 78 回京都支部研究発表会の開催（第 2 報） 発表申込締切 6 月 30 日	91
○ 第 58 回アイソトープ・放射線研究発表会の開催 7 月 7～9 日開催	92
○ 混相流シンポジウム 2021 の開催 8 月 22～24 日開催	92
○ 第 37 回ファジィ システム シンポジウム/FSS2021 の開催 9 月 13～15 日開催	92
○ 第 13 回梶木賞論文の募集 応募締切 10 月 29 日	92
農業農村工学会論文集 内容紹介	93
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	94
学会記事	95

第 89 巻第 7 号予定

展望：東日本大震災からの農業と農村の復興にむけて：原川忠典

小特集：東日本大震災から 10 年・復興の課題と展望

報文：東日本大震災に対する農地・農業用施設の復旧・復興状況：渡邊俊介ほか

報文：福島県における復旧・復興の課題と今後の展望：穴戸潤一ほか

報文：東日本大震災における 10 年間の復旧・復興の成果と課題：郷古雅春ほか

報文：岩手県の沿岸地域における復旧・復興の取組み：佐々木 毅

報文：請戸川の水を用いた水稲栽培における放射性 Cs の影響：申 文浩ほか

報文：原発事故後の初期における農業用水に関する調査研究と教訓：久保田富次郎ほか

技術レポート

北海道支部：寒冷少雪地域における植生マットの試験施工と法面保全効果：小林健嗣ほか

東北支部：りんご園における簡易基盤整備設計指針の策定：金澤 学ほか

関東支部：取水口新設工事に係る河川区域内での地下水位低下工法：澤崎 毅

京都支部：都市的地域における農業用水路の役割と工事施工時の配慮：伴 尚志ほか

中国四国支部：農地海岸の高潮対策工事における環境配慮の事例：西村圭太

九州沖縄支部：農業用ため池の管理及び保全に関する法律の防災工事計画：西村和哲

小講座：放射線量のモニタリングと計測：原田茂樹

私のビジョン：「植物の声」をきいてみた：島本由麻

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

㊦のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこともございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2021年8月 31日～9月2日	大会運営委員会	2021年度（第70回）農業農村工学会 大会講演会	—	Web形態	88巻12号 89巻1, 4, 6号
2021年11月 21日	関東支部	第72回支部大会	—	宇都宮市	89巻5号
2021年11～12 月（予定）	京都支部	第78回支部研究発表会	—	Web形態	89巻4, 6号

2021年度農業農村工学会大会講演会はオンライン開催に変更します

2021年度農業農村工学会大会講演会は、福島大学において開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの収束が見通せないことから、安心して安全な大会講演会にするためにオンラインでの開催に変更いたします。

期日は、2021年8月31日（火）、9月1日（水）、2日（木）

の3日間です。現地研修会は実施しません。

開催方法が変更となったことから、大会講演会への参加申込み、広告、企業展示などの申込み方法については、詳細が決定次第、下記の学会ホームページの大会講演会に掲載いたします。

<http://www.jsidre.or.jp/zenkokutaikai/>

2021年度農業農村工学会賞の決定

2021年度農業農村工学会賞は、2021年5月10日（月）開催の第264回理事会において、学術賞1件、研究奨励賞2件、技術奨励賞1件、優秀論文賞3件、優秀報文賞1件、優秀技術賞1件、優秀技術リポート賞7件、著作賞2件、歴史・文化賞1件、地域貢献賞3件、国際貢献賞2件、メディア賞1件、

功労賞3件、上野賞2件、沢田賞1件が、決定いたしました。

なお、詳細は学会ホームページおよび本誌第7号巻頭2021年度（第70回）農業農村工学会大会講演会のページをご参照ください。

研究部会長の交代

2021年4月1日付で下記研究部会長が交代しました。

記

土壌物理研究部会

新部会長 藤巻 晴行（鳥取大学乾燥地研究センター）

前部会長 西村 拓

2022年度農業農村工学会賞候補の推薦

2022年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。

締切は、2021年10月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照ください。

2022年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞			優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞	
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する研究業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象期間	2016年10月から2021年9月までに発表されたものとする。ただし、その5か年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2018年10月から2021年9月までに発表されたものとする。ただし、その3か年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2018年10月から2021年9月までに発表されたものとする。ただし、その3か年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2020年10月から2021年9月までに発表されたものとする。	2020年10月から2021年9月までに発表されたものとする。	2020年10月から2021年9月までに発表されたものとする。	2019年10月から2021年9月までに発表されたものとする。	2016年10月から2021年9月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。		原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織・団体				
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。				

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2011年10月から2021年9月までに発表されたものとする。	2016年10月から2021年9月までにを行った活動とする。	2019年10月から2021年9月までにを行った活動とする。	2016年10月から2021年9月までにを行った活動とする。	2016年10月から2021年9月までにを行ったものとする。	2016年10月から2021年9月までにを行ったものとする。	2019年10月から2021年9月までに制作したものをとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあつては全面改訂したもののみを対象とする。							2021年度末に65歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体			個人	個人または組織・団体	個人	
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構CPD運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。		正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2022年度(第71回)農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2021年10月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋3-3-44 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2021”

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2021年7月31日(土)17:00
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2021年度のテーマ 「〇〇からみた農業農村」
※〇〇は投稿者が自由に単語を入れてください。
4. 応募資格 どなたでも応募できます。
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタブを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。

7. 賞金 最優秀賞(1作品)2万円
優秀賞(2作品)各1万円

8. アップロード方法

- ① 動画を作成する。
- ② YouTubeにアップロードする(9. 参考資料を参照)。
- ③ タグに3つのワード(jsidre2021, こりゃ映像, (農業農村))を入れる。
- ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
- ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT(new-suido@jsidre.or.jp)宛にメールで送る。
入賞賞金をお渡しするのに必要な情報(氏名, 年齢, 性別, 所属, 連絡先, YouTube動画のURL)

9. 参考資料

- ・YouTubeにPCから動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>
- ・スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>

<参考>こりゃ映像2020 結果(テーマ:農業用水)

最優秀賞:豊かな実りを育む水~水の守り人~

野洲川土地改良区 鍋家可捺

<https://youtu.be/KfTdAu6SY68>

優秀賞:コロナ禍最前線で働くみなさまへ~ハートの形をし

たため池より愛をこめて

兵庫県篠山土地改良事務所 朝比奈潤二

<https://www.youtube.com/watch?v=NMdzSflqKQI>

優秀賞:土地改良事業を契機とした新たな地域営農の展開
in 富山県三ヶ地区

富山県農村整備課 江藏 拓

<https://www.youtube.com/watch?v=EoxnHW4FIVc>

優秀賞:農業用水路の安全対策~用水路事故のない地域づくりを目指して~

富山県土地改良事業団体連合会 竹沢良治

<https://youtu.be/716Z-c651Ts>

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は、2019年8月27日に発行し好評を得ていますが、2021年1月以降、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方に対して学会ホームページ上(<http://www.jsidre.or.jp/>)での閲覧サービスを順次開始いたします。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会Web上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者(大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む)の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6

版用語事典 Web上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名および会員番号を付記して(学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む)、下記E-mailにてお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版が付記されたコンテンツになります。なお、Web版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を取録したものです。

お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2021年度の学生年会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・

研究の推進

・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工期の短縮に資する技術開発

- ③ ①、②以外の分野および学際的の分野に関する調査・研究の推進

・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

- ④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進

- ⑤ 若手研究者の育成の推進

- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

- ⑦ その他(学会に一任)

詳しくは学会ホームページ(http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/)をご覧ください。

個人会員一口 5,000 円 (何口でも可)
 法人会員一口 50,000 円 (何口でも可)
 送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。
 銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058
 口座名 (社)農業農村工学会学術基金
 郵便振替：00140-2-54031
 加入者名 農業農村工学会学術基金

**2021 年 4 月から新たな CPD 制度がスタート！
 2020 年度 CPD 記録の申請期限は【2021 年 6 月 30 日まで】です**

農業農村工学会技術者継続教育機構



農業農村工学会技術者継続教育機構では、2021 年度から CPD 制度の運用を一部変更しました。ついては、CPD 記録の認定申請に関する変更点について、次のとおりお知らせしますのでご理解、ご協力をお願いします。

1. CPD 記録の認定申請は実施日から翌年度の 6 月末までとなりました
2. CPD 記録の認定申請と審査結果の確認は Web 画面か

ら行ってください

3. 「教育形態区分」「年間上限値」が一部変更になり、自己学習【x】を除き、すべての申請に証拠書類の提出が必要となりました
4. 「CPD 取得一覧表」は、6 月と 8 月に Web 画面へ pdf ファイルをアップロードしますので、各自でダウンロードをお願いします (印刷物での郵送はいたしません)

建設業法に基づく経営事項審査に CPD への取組み状況を新設！

農業農村工学会技術者継続教育機構



国土交通省は、2021 年 4 月 1 日に告示を改正し、建設業者に所属する技術者が審査基準日以前 1 年間に取得した CPD 単位の平均値により評価する項目を経営事項審査に新設しました。農業農村工学会技術者継続教育機構の実績も採用されます。

詳細は下記国土交通省のホームページをご参照ください。

https://www.mlit.go.jp/tochi_fudousan_kensetsugyo/const/tochi_fudousan_kensetsugyo_const_frl_000001_00011.html

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信 (事前に Web 利用登録が必要)

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例：学会誌 6 号掲載の問題は 7 月末日が解答期限)

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7~9 問正解で 1.5 cpd を自動登録 (正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません)

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

2022 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2022 年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業 (水利) 施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の形態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、

それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第90巻（2022年第1～12号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4サイズも含まれます。なお、六つ切りは203×254 mm、四つ切りは254×305 mm、同ワイドは254×356 mm、A4は210×297 mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき5 MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 春季 2021年6月30日

夏季 2021年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したのものに限ります。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第90巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2022年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りしません。

9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字以内、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第 89, 90 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 縮 切 (A4判 1,500字以内)
第 89 巻第 7 号 大会特集号 (東北支部)	公募なし
8 号 記録的な豪雨に対応する農業農村地域の役割 (仮)	終了
9 号 土地改良区に期待される役割, その支援策と先進的な取り組み事例 (仮)	終了
10 号 農業農村工学におけるデジタルトランスフォーメーション (仮)	終了
11 号 政策のグリーン化に向けた農業農村整備の新たな展開 (仮)	終了
12 号 新たな土地改良長期計画と新たな農業農村工学の役割と技術 (仮)	6月10日
第 90 巻第 1 号 大学改革を踏まえた農業農村工学分野に関する今後の大学の展開方向 (仮)	公募なし
2 号 —	公募なし

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先 (要旨および本文原稿など)
〒 105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494
E-mail : henshu@jsidre.or.jp
※提出は、E-mail の添付ファイルにてお願い申し上げます。

第 89 巻第 12 号テーマ「新たな土地改良長期計画と新たな農業農村工学の役割と技術」(仮)

2021 年 3 月に閣議決定された新たな土地改良長期計画では、わが国の活力ある農業・農村を次世代につなぐため、農業農村整備事業が果たすべき役割などを整理しつつ、「新たな食料・農業・農村基本計画」に加え、「国土強靱化基本計画」などの上位政策を踏まえた内容が盛り込まれました。その基本的な視点は、①人口減少下で持続的に発展する農業の振興、②多様な主体が住み続けられる農村の振興、③農業・農村インフラの持続性・強靱性の強化の 3 本柱です。

さらに、本長期計画を技術面から推進する「農業農村整備に関する技術開発計画 (現行, 平成 29 年 4 月策定)」も令和 3 年度前期の改定に向けて検討がなされています。この技術開発計画では、特に、従来の都市一極集中型の居住形態や人が密集する働き方からの転換を促し、テレワーク、遠隔操作等の技術のニーズを高めています。また、近年のデジタル技術は急速に発展しており、農業農村整備事業の実施に当たっても、スマート農業に代表される農業のデジタルトランスフォーメーションにより工程そのものを大きく変え、働き方の改善を含め生産性を高めていくことが必要となっています。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿原稿およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」, 『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員

また、温暖化による気候変動、大規模自然災害の増加、農業由来の温室効果ガスの排出、生産基盤の脆弱化や地域コミュニティの衰退、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした生産・消費の変化が挙げられ、こうした課題への対応が一層重要になっています。

このような状況に対応するためには、農業・農村の生産力の向上と持続性の両立をイノベーションで実現していくため、脱炭素・環境負荷軽減の推進、イノベーション等による持続的生産体制の構築、持続可能な農山漁村の創造等に資する技術の開発を指向する必要があります。

そこで、本小特集では、大きな社会の転換点に立ち、土地改良事業の政策や技術開発の将来を展望し、策定された新たな土地改良長期計画などを土台にして、将来の農業農村工学の責務や役割についての報文を広く募集します。なお、あと 8 年後の 2029 年には、学会発足から 100 年の歴史的な節目を迎えますので、長期的な農業農村工学の展望に関する報文も歓迎いたします。

会あてに、ご投稿ください。

なお、投稿票・内容紹介・本文 (テンプレート) の各ファイル (Word) を更新いたしました。上記の学会ホームページからダウンロードし、各ファイルを使用して原稿の作成をお願いいたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2021年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2018年のインパクトファクター (IF) は1.264となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災 (施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界11カ国から Editor (20名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2020年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・ Editor-in-Chief

Dr. Takao MASUMOTO

Faculty of Bioresource Sciences, Akita Prefectural University, Akita, Japan

・ Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Chen-Wuing Liu

National Taiwan University, Taiwan, ROC

・ Editors 11カ国から20名

・ Editorial Advisors 29名

・ Chief Managing Editor

Dr. Inhong SONG

Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea

・ Managing Editors

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Masayuki FUJIHARA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science, Kangwon National University, Korea

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Soji SHINDO

Rural Development Division, Japan International

Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan

編集事務局 (2022年6月まで韓国担当)

・ Dr. Inhong SONG

Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University

1 Gwanak-ro, Gwanak-Gu, Seoul, 151-742, KOREA

TEL: +82-2-880-4581

FAX: Fax: +82-2-873-2087

E-mail: inhongs@snu.ac.kr

投稿先: オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格: 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等: <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール: 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料: 正会員・名誉会員 9,900円 (税込)

学生会員 (院生含む) 4,950円 (税込)

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで

員番号を明記の上、お申し込みください。

第 78 回京都支部研究発表会の開催 (第 2 報)

1. 研究発表会

- (1) 日時 2021 年 11 月上旬から 1 カ月程度
- (2) オンラインにて開催します (オンデマンド方式)。
- (3) 講演要旨集を発行します。

開催時期や方法の詳細が決定次第、農業農村工学会ホームページ内の京都支部ホームページ (<http://jsidre.or.jp/kyoto/>) にてお知らせいたします。

※情報交換会・現地研修会は開催いたしません。

2. 研究発表申込み

2021 年 6 月末日までに、発表希望者は投稿原稿に先立ち、以下の情報を箇条書きにした電子メールを神戸大学・多田にご送信ください。①表題 (仮題でも可)、②発表者名、所属、年齢、③連名者名、所属、年齢、④希望発表部門 (水理、水文・気象、土壌物理、土質力学、応用力学、材料・施工、施設管理・更新、灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態環境、地震・その他)、⑤発表者の連絡先電話番号、⑥発表者のメールアドレス。なお、件名を「発表申込み」としてください。

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町 1-1

神戸大学大学院農学研究科 多田明夫

E-mail : atada@kobe-u.ac.jp

TEL&FAX : 078-803-5897

3. 投稿原稿申込み

- (1) 原稿投稿先および期限

2021 年 8 月末日までに (遅延不可)、研究発表の申込みをされた方は、投稿要領に基づき作成した原稿 (PDF) と投稿票 (MS エクセル) を、電子メールで神戸大学・多田までご送信ください。投稿票は、京都支部ホームページ (<http://jsidre.or.jp/kyoto/>) の「第 78 回京都支部研究発表会の開催について」よりダウンロードしてください。

※投稿原稿申込みは電子投稿のみで結構です。発表申込み・投稿申込み後に、事務局より受信確認メールを返信いたします。

- (2) 投稿要領

・発表者は学会員に限られません。ただし、連名者に少なくとも 1 名は学会員が含まれること。なお、農業農村工学会京都支部では、研究発表会における発表と講演要旨を審査し、優れた研究発表に京都支部賞を授与し

ていますが、同賞の受賞者は研究発表会の時点で京都支部に所属する学会員である方に限ります。

- ・発表者は、研究発表会への参加申込みの手続きをしていただきますので、その点にご留意ください。
- ・投稿要領および原稿の書式については、京都支部ホームページ内の「発表申込み (投稿票) と投稿要領」 (<http://jsidre.or.jp/kyoto/>) を参照してください。
- ・原稿の枚数は図面を含めて 2 枚とします。
- ・発表時間は 12 分 (質疑応答の対応は今後決定) です。オンデマンド発表に必要となる動画ファイルの作成方法は発表者の方に事務局より後日ご連絡いたします。
- ・原稿はそのまま印刷しますので、フォントを埋め込んだ PDF 形式のファイルで、鮮明なものを提出してください。PDF ファイルへのフォントの埋込み方法については、支部ホームページに掲載の投稿要領を参照してください。
- ・動画ファイルはインターネット経由でアップロードしていただくか、CD-R・USB メモリーなどで事務局まで送付いただくことになります。動画ファイルの提出期限は発表者の方に事務局より後日ご連絡いたします。

4. 参加申込み

参加申込みの方法については、本誌第 7 号に掲載するとともに、京都支部ホームページ (<http://jsidre.or.jp/kyoto/>) にてお知らせする予定です。

5. 備考

本会告には、2021 年 5 月末時点における京都支部研究発表会の開催予定を掲載しておりますが、新型コロナウイルス対策の都合上、予定が大きく変更される場合は、農業農村工学会ホームページなどで改めてお知らせいたします。

6. 開催地事務局

富山県農林水産部農村整備課内

第 78 回農業農村工学会京都支部研究発表会 開催地事務局

担当 桶谷祐二

TEL : 076-444-9640 FAX : 076-444-3437

E-mail : yuji.oketani@pref.toyama.lg.jp

担当 池田 勉

TEL : 076-444-3299 FAX : 076-444-4413

E-mail : tsutomu.iked@pref.toyama.lg.jp

第58回アイソトープ・放射線研究発表会の開催

- | | | |
|---------|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 主催 | (公社)日本アイソトープ協会 | 〒113-8941 東京都文京区本駒込 2-28-45 |
| 協賛 | 農業農村工学会ほか 28 学協会 | E-mail : happyokai@jrias.or.jp |
| 後援 | 応用物理学会ほか 35 学協会 | |
| 2. 日時 | 2021年7月7日(水)～9日(金) | |
| 3. 場所 | オンライン開催 | |
| 4. 問合せ先 | (公社)日本アイソトープ協会 | |
| 5. その他 | | 詳しくは、第58回アイソトープ・放射線研究発表会ホームページ(https://confit.atlas.jp/guide/event/jrias2021/top)をご覧ください。 |

混相流シンポジウム 2021 の開催

- | | | | |
|-------|------------------------------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 主催 | 日本混相流学会 | 4. 問合せ先 | 混相流シンポジウム 2021 実行委員会 |
| 共催 | 関西大学システム理工学部・化学生命工学部・環境都市工学部 | | E-mail : mfsymp2021scrtry@cm.kansai-u.ac.jp |
| 協賛 | 農業農村工学会ほか 34 学協会 | 5. その他 | 詳しくは、混相流シンポジウム 2021 のホームページ (http://www.jsmf.gr.jp/mfsymp2021/index.html)をご覧ください。 |
| 2. 日時 | 2021年8月22日(日)～24日(火) | | |
| 3. 場所 | オンライン開催 | | |

第37回ファジィシステムシンポジウム/FSS2021 の開催

- | | | | |
|-------|------------------------------------------------|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 主催 | 日本知能情報ファジィ学会 | 4. 問合せ先 | FSS2021 実行委員会 |
| 共催 | 国際ファジィシステム学会 | | E-mail : fss2021-eml@soft-kyushu.org |
| 後援 | 久留米市(予定) | 5. その他 | 詳しくは、第37回ファジィシステムシンポジウム/FSS2021 のホームページ (http://fss.j-soft.org/2021/) をご覧ください。 |
| 協賛 | 農業農村工学会ほか 41 団体 | | |
| 2. 場所 | 久留米シティプラザおよびオンライン
〒830-0031 福岡県久留米市六ツ門町 8-1 | | |
| 3. 日時 | 2021年9月13日(月)～15日(水) | | |

第13回梶木賞論文の募集

全国農村振興技術連盟では、将来の農業農村整備を担う若手技術者の皆様から、農村振興に対する自らの経験を踏まえた提言・抱負をまとめた、第13回「梶木賞」論文を募集いたします。

- 主催 全国農村振興技術連盟
後援 農業農村工学会
- 応募テーマ
農村の直面している課題とその対応策
～(論文の内容を認識できる副題を付してください)～
- 応募資格
全国農村振興技術連盟会員ならびに農業土木系の学科に在籍している学生
- 原稿
3,600字程度以内(会誌「農村振興」刷り上がり2ページ内

であれば、写真・図の挿入は自由)

5. 応募締切 2021年10月29日(金)

6. 表彰

全国農村振興技術連盟の定める表彰規定に基づき受賞者を決定します。

・最優秀賞1点(表彰状および賞品)

・優秀賞2点(表彰状および賞品)

7. 応募先・問合せ先

全国農村振興技術連盟 企画部

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館内

TEL : 03-3434-5407 FAX : 03-3578-7176

E-mail : kajiki@n-renmei.jp